

科目名	企画科目（学校心理学）			学期	前期	単位数	2	担当者	木下忠恭
副題	-								
ナンバリング	N2-10-262	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,4

授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業の到達目標

学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

1. 学校教育と心理学. 歴史的背景を知る
2. 発達心理学的視点と学校教育
3. 学校内チーム支援について
4. 保護者と学校を支援する視点
5. 児童期の発達と学校教育
6. 児童期の学習の問題について
7. 児童期の不登校について
8. 児童期の仲間関係といじめについて
9. 児童期における学校内チーム支援の在り方について
10. 思春期・青年期の発達と学校教育
11. 思春期・青年期の学習の問題について
12. 思春期・青年期の不登校について
13. 思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14. 思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、
事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと（90分）

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

・石隈利紀著『学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』（1999・誠信書房）・学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック』第2版（2007・風間書房）・その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
(B) 学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
(A) 学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
(S) 学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在的課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

教職経験や臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、教員と心理支援職という2種類の実務経験を活かして、不登校、いじめ、虐待、発達障害などの問題について、多面的にその原理、分析、対応を学ぶことを通して、学校における心理的な理解をより深めることができる力を身につけさせる。